

令和元年（2019年）秋・冬号

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

おもしろい本 みつけた！

《中学生・高校生》

1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広く

おもしろい本を紹介します。

茨木市立図書館 おもしろい本みつけた

検索 



ホームページにものっています。

★気になる本をみつけたら、さっそく探してみよう！



K510
(環境問題)

2018年12月

『クジラのおなかからプラスチック』

保坂 直紀 作

(旬報社)

「プラスチック」と聞いて、あなたが思い浮かべるものは何でしょうか。ペットボトルのような硬いものだけではなく、軟らかいビニール袋もプラスチックのひとつです。私たちの身の回りには、多種多様なプラスチック製品があふれています。

この本は、今まさに世界が注目する環境問題である「プラスチックごみによる海の汚染」について書かれたものです。

そもそもプラスチックとはどんなものなのか、という基礎的な知識から、プラスチックごみの現状、世界的な動きに至るまで、具体的な数値、写真・イラストを用いて、分かりやすく解説しています。

プラスチックごみの問題がより身近に感じられる一冊です。



茨木市立図書館



K300
(社会)

2019年2月

『開幕！世界あたりまえ会議 私の「ふつう」は、誰かの「ありえない」』

斗鬼 正一 作

(ワニブックス)

「男女を徹底的にわける」「犬と結婚する人」「どんなに寒くても服を着ない」など、少し聞いただけでもびっくりする、日本ではありえないことを、あたりまえにしている国があります。そんな様々な世界のあたりまえについてを知ることができます。これを読むと、日本の常識が世界の非常識になるのかも、と思うこともありますが、世界には196の国があり、人口は約70億人もいるのですから、それ違いがあっても当然ですよね。この膨大な数の文化が、「男と女についてのあたりまえ」や「人生についてのあたりまえ」など5部、全部で83の議題に分けて書かれています。

さあ、世界あたりまえ会議に参加してみてください。



セーアリ
(世界の小説)

2018年3月

『かならずお返事書くからね』

ケイトリン・アリフィレンカ 文
マーティン・ギャンダ 文
リズ・ウェルチ 編
大浦 千鶴子 訳

(PHP研究所)

アメリカ人少女ケイトリンとシンバプ工人少年のマーティンは、文通によって友情を育むうちに、家族ぐるみの交流になります。それが住む国は、社会情勢や仕組みがあまりにも違いました。アメリカ人らしい、フレンドリーで奉仕の心に富んだケイトリンと、内戦後の貧困で親が失業し、勉強したいのに学校に行きたくても行けないマーティン。本当にやりたいことを願い、周りに助けを求め、誠実に行動したことで、マーティンは貧困から脱します。これは実際にあったお話で、お互いに友を思いやる、純粋な心が描かれています。



ニーカシ
(日本の小説)

2018年11月

『ヴンダーカンマー ここは魅惑の博物館』

樺嶺 茜 作
上路 ナオ子 絵

(理論社)

職場体験の日、中学生5人がやってきたのは誰も希望していなかった博物館でした。5人は別々に、博物館の各部署の作業を手伝うことになります。難しそう、古くさい、気味が悪い、興味ない…それが抱いていた博物館のイメージは、個性豊かな担当者やボランティアの面々に出会い、色々な仕事を体験する中で変わっていきます。スケールの違う時間が流れる「ヴンダーカンマー（不思議／驚異の部屋）」で、自分や友達の新しい一面に出会ったり、今までの自分から一步踏み出してみたり…。劇的ではないけれど、少しずつ世界が広がる5人それぞれの特別な1日を描きます。



Fータカ
(日本的小説)
2018年3月

『みとりし』

高森 美由紀 作 (産業編集センター)

ある時から、動物の言葉がわかるようになった薫は、偶然ペットの看取りを扱う仕事に就きます。自分で選ぶことが苦手で「どっちでもいい」と流れに任せるように生きてきた薫ですが、ペットの飼い主や、仕事仲間と係わることで、少しずつ自分の意志で行動するようになり、辛い過去の経験とも向き合っていくようになります。

カラスのおしゃべりがキーポイントになっていて、薫が伝えるペット達の言葉は、短いけれども、飼い主への思いにあふれ、胸を打たれます。



451-18
(気象学)

2018年6月

『天達のお天気 1日1へえ～

自然にはびっくりがいっぱい！』

天達 武史 作 (幻冬舎)

ゲリラ豪雨や竜巻、台風の大型化など、最近天気が極端だと感じることが多くなっていますか。

好きな気象予報士ランキングの上位で、テレビでもおなじみの著者が、お天気のことについて、イラストをまじえて分かりやすく解説してくれる本です。

このコラムは、季節ごとに書かれていますが、どこから読んでも楽しめ、お天気豆知識がいっぱいです。



Fーアケ
(日本的小説)
2018年11月

『会社を綴る人』

朱野 帰子 作 (双葉社)

派遣社員を10年続けた紙屋は、「つまらない取り柄でも一つあれば、会社でやっていい」这样一个兄の言葉に勇気付けられ、コネを使って、老舗の製粉会社に就職します。しかし、注意散漫で自信がなく、何をやってもうまくいかない紙屋は、同僚の邪魔になるばかり。配属された総務部で、あまりの仕事の出来なさに、何もしないでくれとまで言われてしまいます。そこで、唯一の特技である文を書く事で、自分にできる事を探し始めます。

自分なりのやり方で、会社の役に立つために努力していくお仕事小説です。



9102-ヤ
(日本文学史)

2019年2月

『文豪お墓まいり記』

山崎 ナオコーラ 作 (文藝春秋)

この本は、著者が中島敦・太宰治・瀧澤龍彦・芥川龍之介といった、明治から昭和にかけて活躍した文豪たちのお墓まいりをしながら、文豪との出会いや作品に思いを馳せるエピソードを集めたものです。

文豪のお墓に向かうまでに食べることの出来るおいしいごはんに舌鼓を打ちつつ、お墓まいりでは文豪への尊敬の心を忘れません。

作中では文豪の作品の紹介を挟んでいますので、作品を読んだことがなくても興味が持てる内容です。



F-イマ
(日本の小説)

2018年10月

『ひやっか! 全国高校生花いけバトル』

今村 翔吾 作 (文響社)

2人1組でタッグを組み、5分間で花をいけて相手と競う、華道の甲子園と言われる「全国高校生花いけバトル」に感動した春乃は、花いけバトルに参加するために、高校でたった一人で華道同好会を立ち上げます。しかし一緒に参加するためのパートナーがなかなか見つかりません。やっとのことで交換条件付きパートナーになってくれたのは、男子転校生で、高校生ながら大衆演劇の仕事をする貴音でした。予算も時間もなく、妨害にあう2人は無事に参加できるのでしょうか。

実際に行われている全国高校生花いけバトルを題材にした、爽やかな青春小説です。

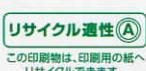
★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎627-4129	畠田町1番51号
中条図書館	☎622-2476	東中条町2番13号
水尾図書館	☎637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：令和元年(2019年)10月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷物は再生紙を使用、10,000部作成し1部あたりの単価は7.32円です。